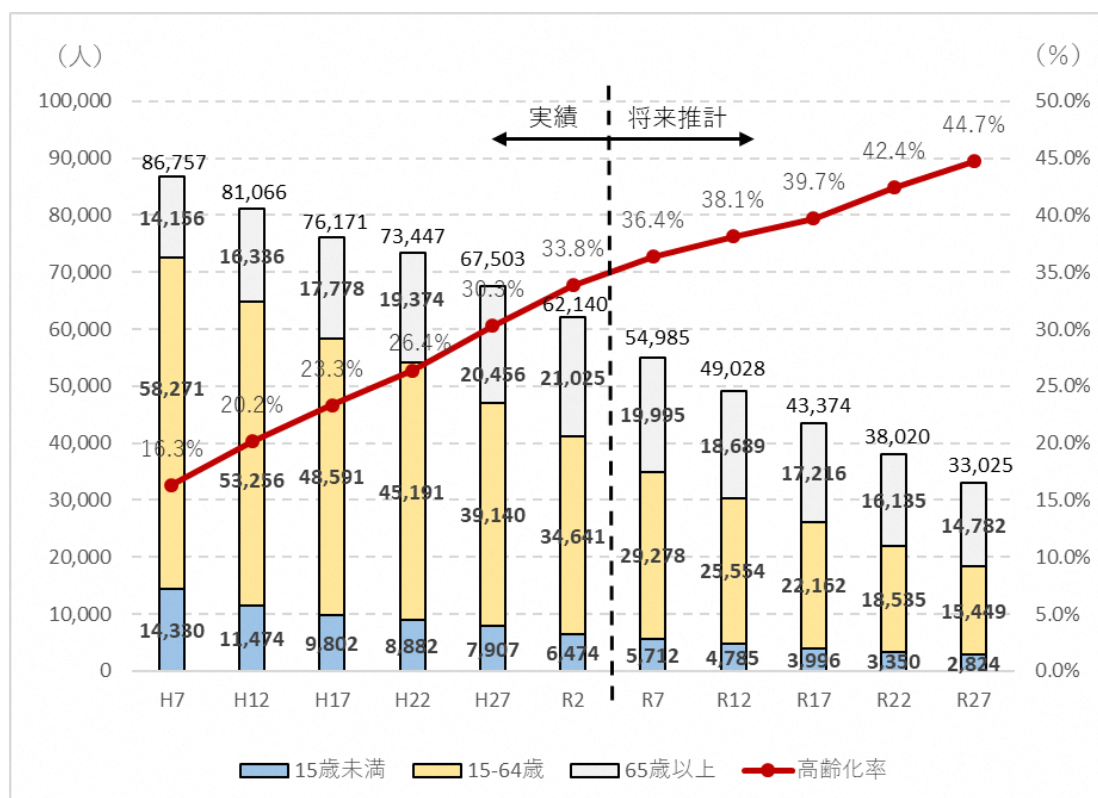


3-2 地域の現状

(1) 人口・高齢化の推移

本地域の総人口（令和2（2020）年時点）は62,140人であり、平成22（2010）年と比較すると、減少率は15.4%となっており、今後もこうした傾向は続くと予測されています。

また、少子化や進学・就職を契機とした若年層の都市部への流出などに伴い、高齢化率は年々上昇し、令和2（2020）年時点で33.8%となっており、令和27（2045）年には44.7%まで上昇すると予測されています。



(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査

(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>)

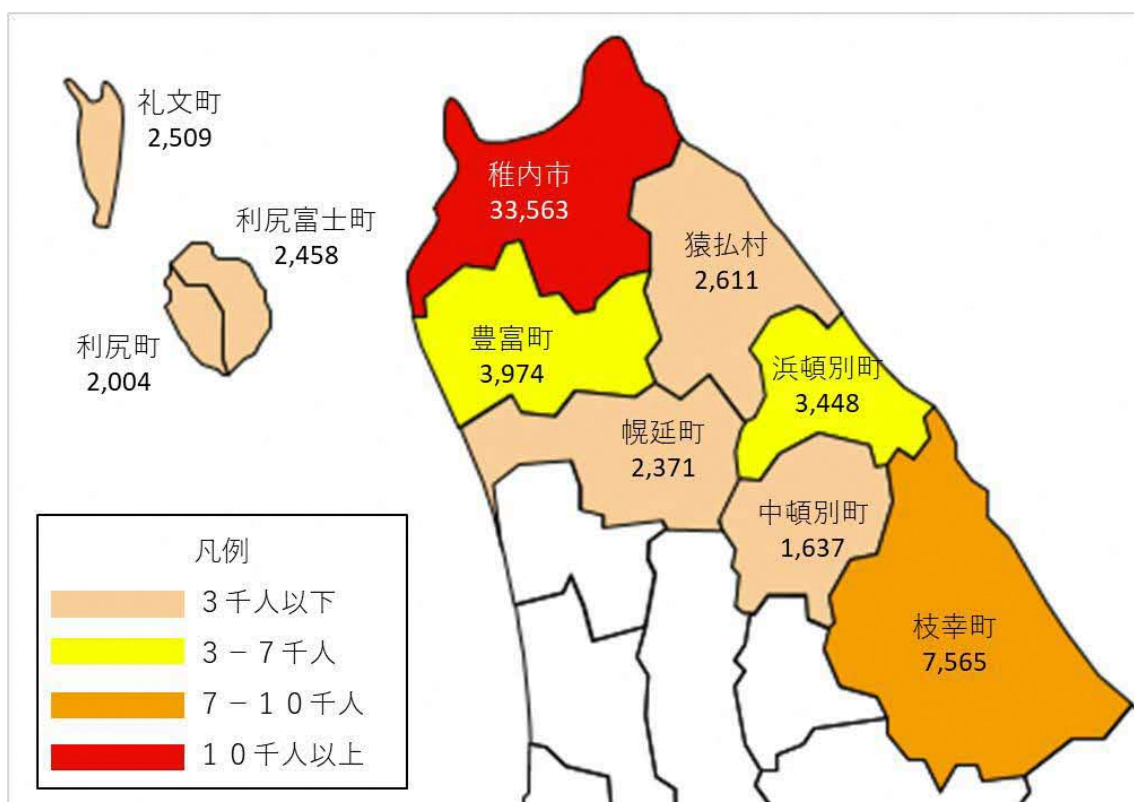
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

(<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>) をもとに作成)

図3-6 宗谷地域全体の人口推移

(2) 人口の分布

本地域の総人口 62,140 人（令和 2（2020）年）のうち、地域中心都市である稚内市に 33,563 人と半数以上が集中し、南東部に位置する枝幸町が 7,565 人、残りの 8 町村は、4,000 人以下となっています。

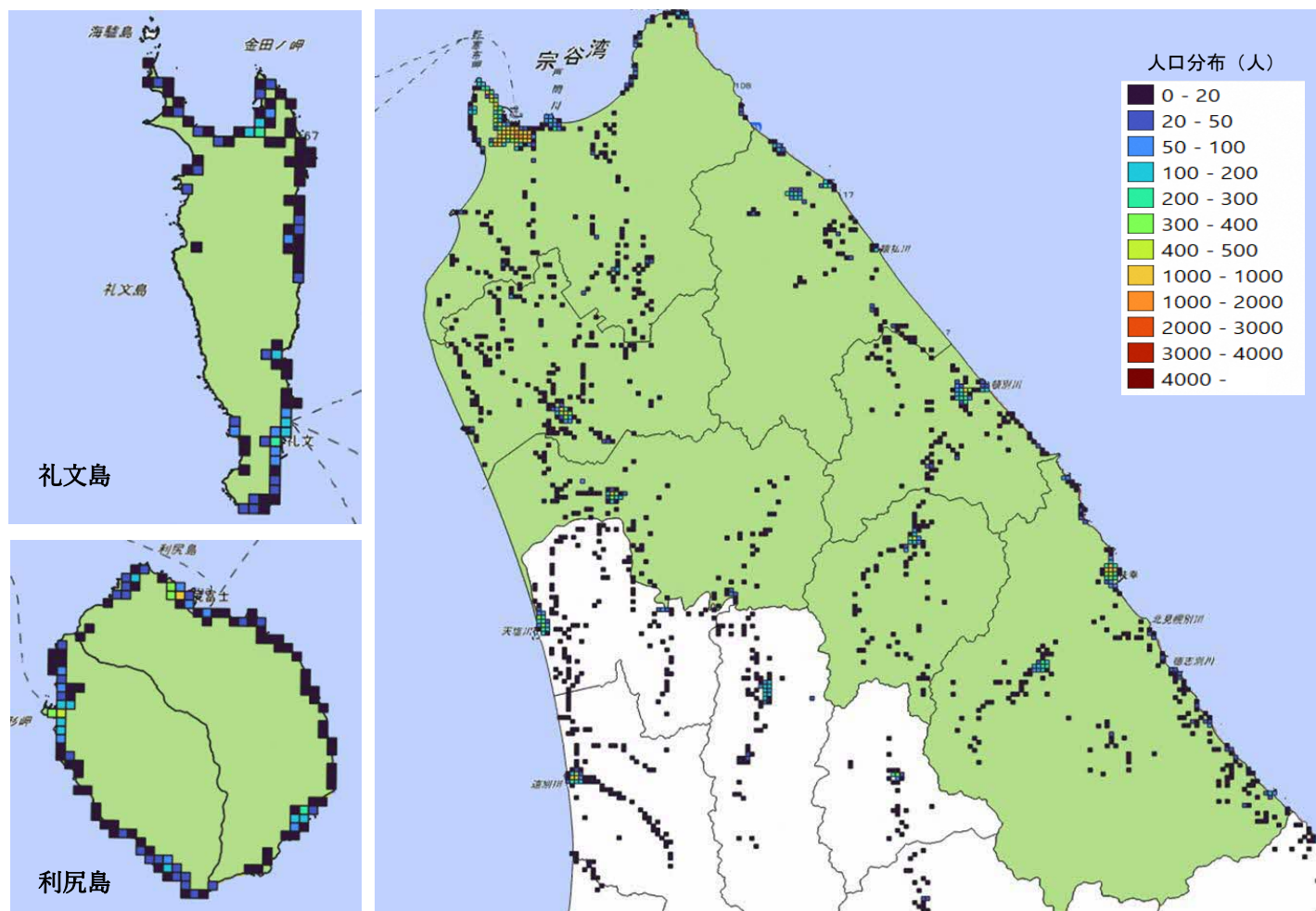


（出典：総務省統計局「令和 2 年国勢調査」

（<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>）をもとに作成）

図 3-7 市町村毎の人口（令和 2 年（2020 年））

500m メッシュ毎の人口分布をみると、生活利便施設が集積する各市町村の市街地に人口が集積しており、市街地以外においても広範囲にわたり住民が散居しています。

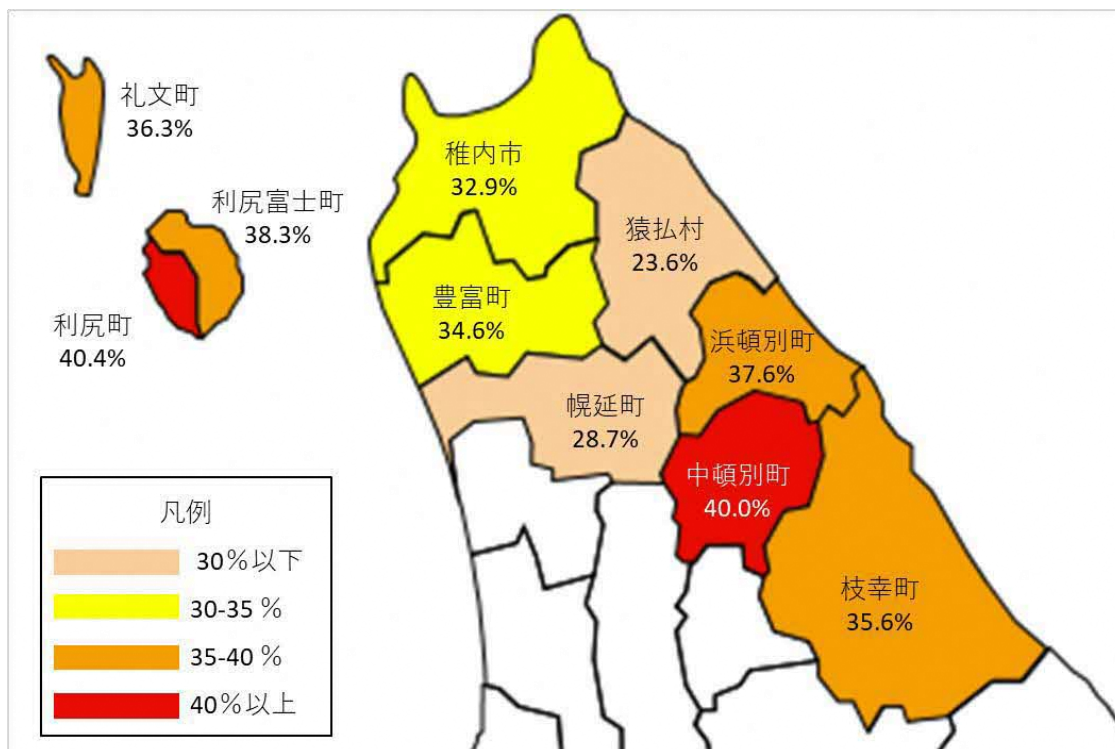


(出典：国土交通省 「国土数値情報 500mメッシュ別将来推計人口データ (H30 国政局推計)」 (<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>) をもとに作成)

図 3-8 本地域の人口分布 (平成 27 年 (2015 年))

(3) 高齢者人口の分布

管内市町村の高齢化率（65歳以上人口の割合）は、33.8%（令和2年（2020年））と全道平均（32.2%）を上回っており、合計特殊出生率が比較的高いと言われる猿払村や幌延町でも21%を超えるなど、本地域の全市町村が超高齢化社会の基準（高齢化率21%超）に達しています。



(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」)

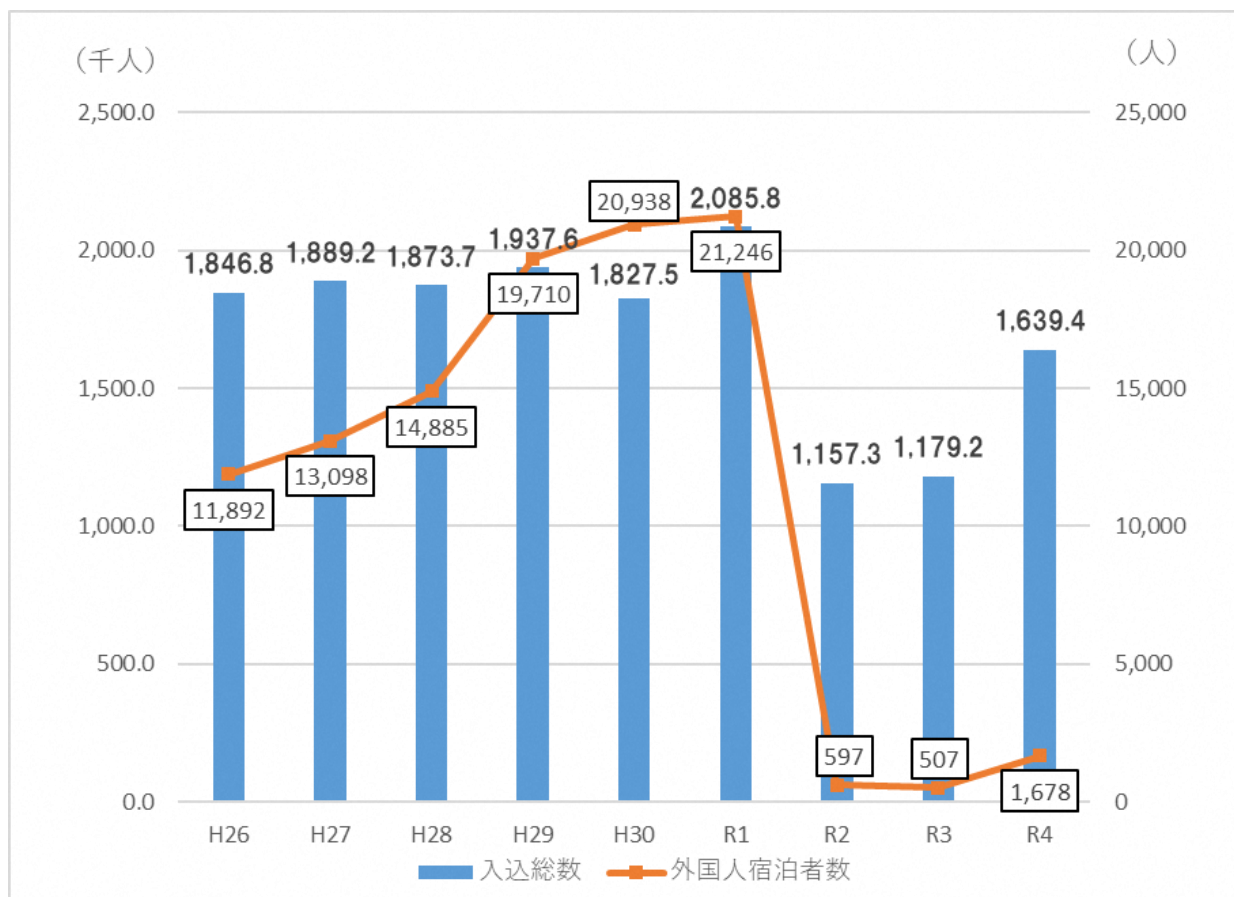
(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図3-9 市町村毎の高齢化率（令和2年（2020年））

(4) 観光の動向

本地域の観光入込客数は、平成14年度(2002年度)の約300万人をピークに逡減し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前は年間180万~200万人程度で推移していました。令和2年度(2020年度)以降、コロナ禍の行動制限で入込客数は大きく減少しましたが、令和4(2022)年度には、164万人(コロナ禍前の約8割の水準)まで回復しました。

外国人宿泊客数も令和元年度(2019年度)まで増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症に係る入国制限措置などにより、極めて大きな影響を受け、令和4年度(2022年度)においても、1,678人とコロナ禍前の約1割の水準となっており、今後のインバウンドの回復に期待が寄せられています。

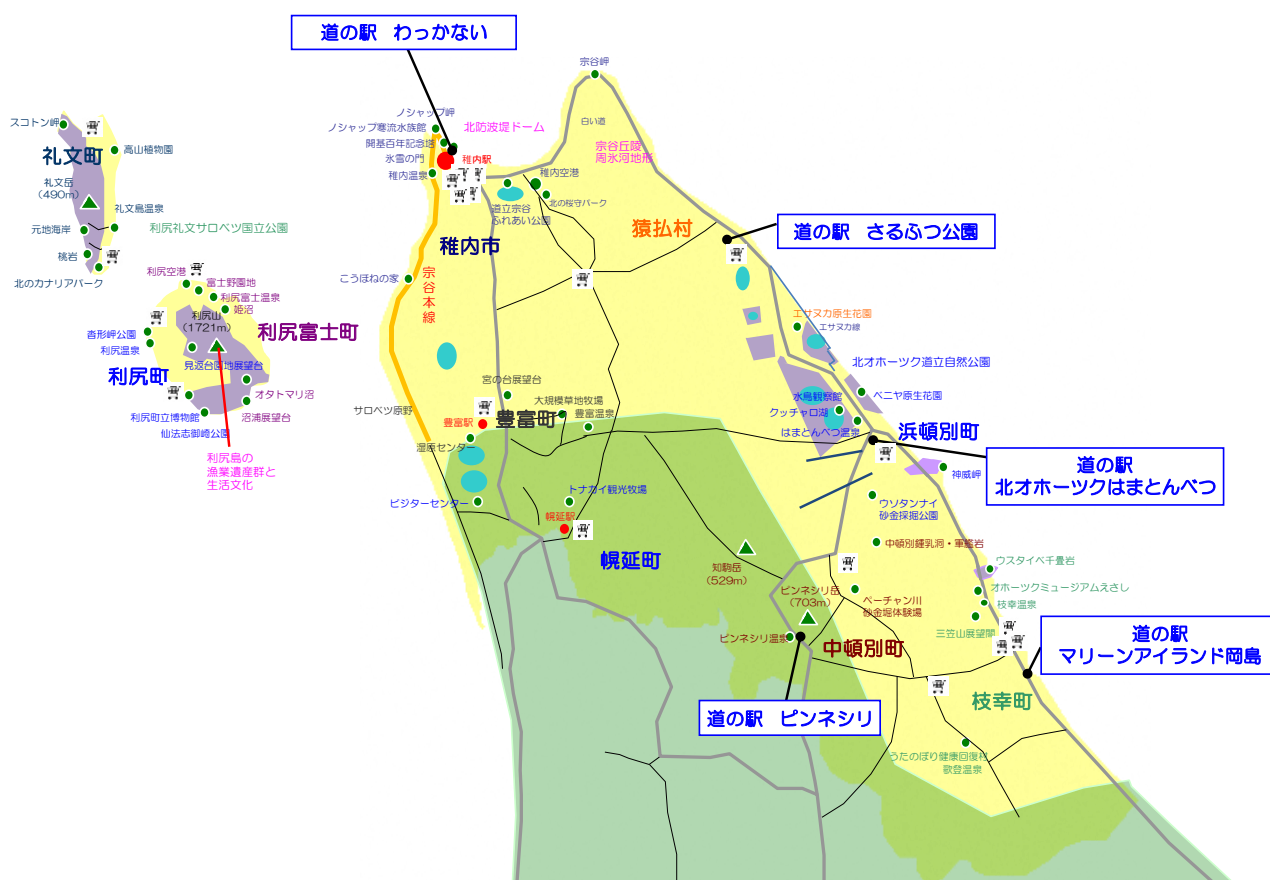


(出典：北海道経済部観光局観光振興課「北海道観光入込客数調査報告書」
(<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.html>) をもとに作成)

図3-10 観光入込客数・外国人宿泊者数の推移

本地域の観光資源は、「利尻礼文サロベツ国立公園」や「ラムサール条約登録湿地」（サロベツ原野、クッチャロ湖）などの雄大な自然をはじめ、北海道本島最北の地「宗谷岬」や全長約16kmにも及ぶ直線である「エサスカ線」などがあります。これらの観光資源の多くは各市町村の市街地から外れた場所にあるため、公共交通機関で赴くことが難しく、移動に多くの時間を要します。

また、観光施設として、稚内市、猿払村、浜頓別町、中頓別町、枝幸町には道の駅があり、管内の長距離移動の際の休憩場所となっています。その他、稚内市の開基百年記念塔や幌延町のトナカイ観光牧場などの観光施設があります。



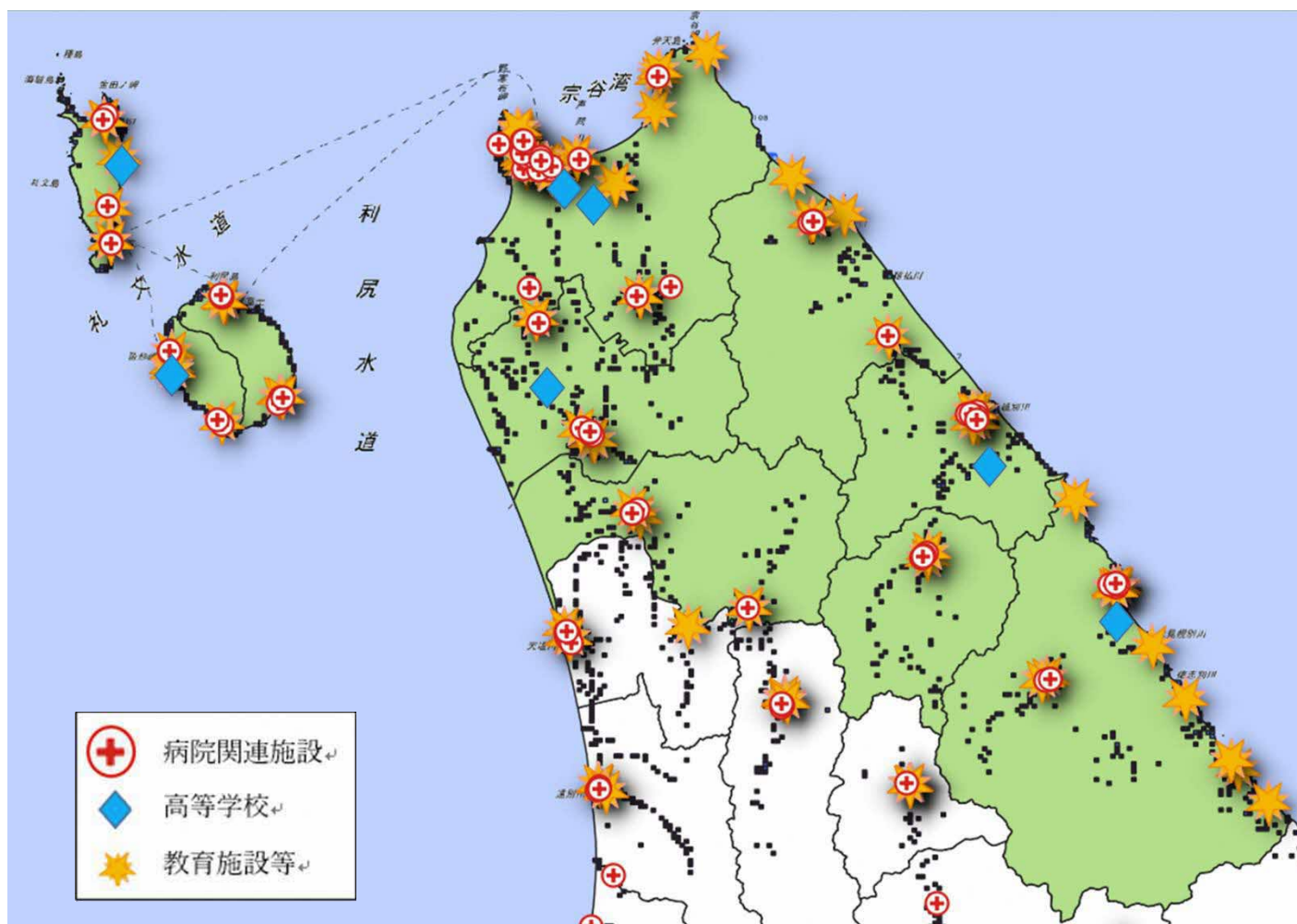
(出典：宗谷総合振興局商工労働課「令和5年度（2023年度）管内概要（観光）」資料をもとに作成)

図3-11 宗谷地域の観光資源及び商業施設

(5) 医療機関及び教育施設等の状況

本地域の医療機関（総合病院、診療所、クリニック、歯科）は、大部分が各市町村の市街地に集積しています。市街地以外においても広範囲にわたり住民が散居している当管内では、自家用車や公共交通機関を利用して通院している住民もいます。

本地域の教育施設等（幼稚園、小学校、中学校）は、大部分が各市町村の市街地に集積しています。高等学校は、稚内市に2校、浜頓別町に1校、枝幸町に1校、豊富町に1校、礼文町に1校、利尻町に1校と合計7校となっており、猿払村、中頓別町及び幌延町に居住している高校生は稚内市、浜頓別町や豊富町等の高校に通学しています。

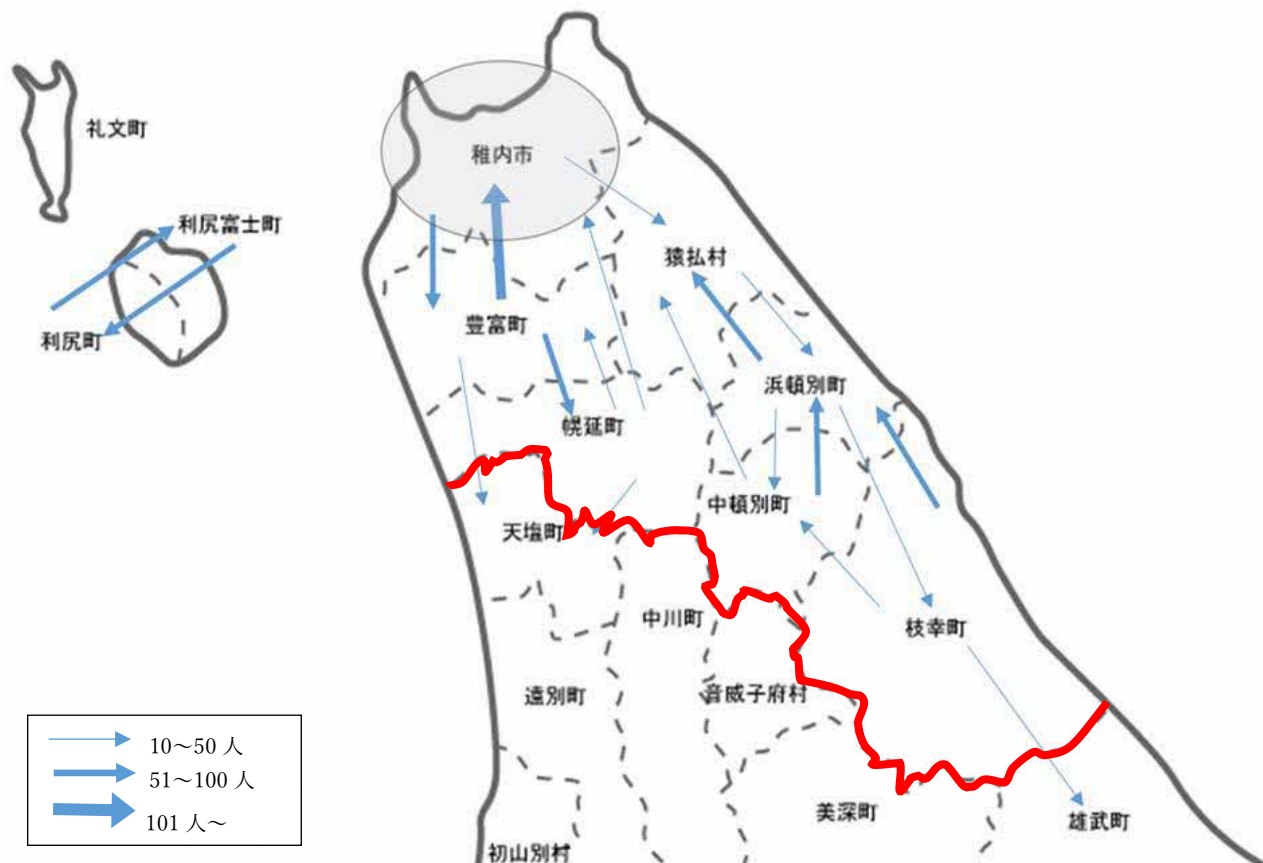


(出典：国土数値情報 医療機関及び教育施設 (国土交通省)
(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>) 等をもとに作成)

図3-12 宗谷地域の医療機関及び教育施設等の分布図 (令和3年(2021年))

①通勤・通学の移動実態

本地域においては、企業や高校が集積している稚内市への移動が多くなっています。また、水産加工業の盛んな猿払村や浜頓別町に周辺市町村から通勤している人も多くいます。



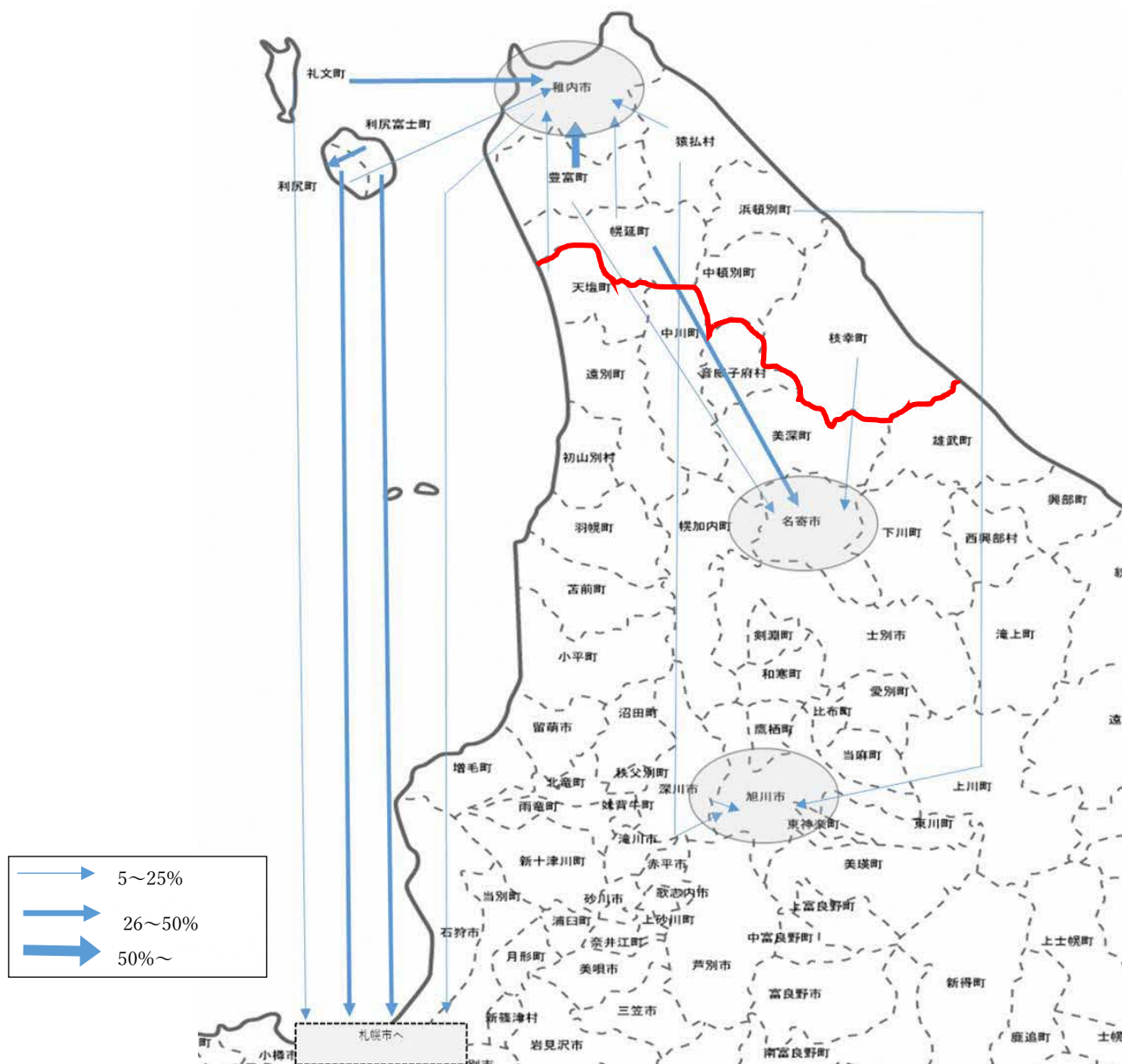
(出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>) をもとに作成)

図3-13 通勤・通学の移動実態 (令和2年(2020年))

②医療機関受療に伴う移動実態

本地域においては、様々な診療科のある稚内市への通院が多くなっています。また、枝幸町や幌延町は、名寄市への通院が多くなっています。離島においては、稚内市への通院のほか、航空路を利用した札幌への通院といった現状もあります。



(出典：北海道総合保健医療協議会地域医療専門委員会資料（北海道保健福祉部）

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/iryokeikaku/>等をもとに作成

図 3-14 医療機関の受領に伴う移動図（令和 3 年（2021 年））